

第3回日本柔道整復師会大阪学会で在校生と教員が発表

去る8月23日(日)、大阪商工会議所にて第3回日本柔道整復師会大阪学会が開催されました。

本校からは学生発表で3年生昼間部の井上良一さん、織田篤史さん、福山哲広さん、伊藤光浩さんのグループが、一般発表では教員の外林大輔先生が発表しました。

学生発表では「物理療法による関節可動域の改善」と題して物理療法のなかでも特に使用頻度の高い温熱療法にスポットをあて、深部加熱と表面加熱を実施した際の関節可動域の変化について示し、その有効性と使用についての問題点などを報告しました。



学生発表した昼間部3年生の福山・井上・織田・伊藤さん(左より)

外林先生は「整復不能な第5趾節間関節脱臼に対する低出力超音波パルスの効果」と題して、整復不能であった脱臼に対して整復位を保持した状態で、靭帯損傷部に低出力超音

波パルスを照射することにより、良好な治癒が得られた症例を示し、低出力超音波パルスが組織修復を促進する可能性について報告しました。



一般発表する外林大輔先生

今回の2演題は、従来から実施されている治療法の良さを再確認するものと、新しい治療法の可能性を示すものでした。どちらも臨床に直結する非常に有意義な発表であり、「臨床の森ノ宮」を広く印象付けたのではないのでしょうか。

学生は今回の経験から、発表するための方法論とともに学会発表の楽しさを学んだことと思います。この経験を生かしてまた近い将来に学会の舞台に立ってくださることを願っています。(伊黒)

第2回森ノ宮柔道整復学術集会

去る、5月17日(日)本校7階講堂にて、昨年に引き続き「第2回森ノ宮柔道整復学術集会」を開催しました。当日は天候も悪く、新型インフルエンザが流行の兆しを見せ始めていたこともあり、不安を抱えながらの開催となりましたが、蓋を開けてみると昨年と同様の盛況ぶり、約180名の参加を得ることができました。

今回の学術集会では、自らの臨床や研究の成果についての一般発表に加え、『運動療法を捉える～プロローグ～』をテーマに掲げ、シンポジウムを執り行いました。シンポジウムでは4名の先生方に発表していただき、参加者との活発なディスカッションが展開され、運動療法を行う上で評価と再現性の重要性を痛感させられたのではないのでしょうか。また、特別講演では『変形性股関節

症に対する運動療法』と題し、森ノ宮医療大学学長・廣橋賢次先生にご講演いただきました。過去24年に及ぶ貴重な資料を



基に、運動療法の方法論と効果について、柔道整復師にとってひとつの道筋を示していただけたと思います。

今後は柔道整復学の構築に向けて、この学術集会をより活発なものとし、また、在校生や卒業生の研究へのひとつのステップとなることを願っています。(老後)

2010年5月、第3回柔道整復学術集会開催決定！

第3回柔道整復学術集会が来年5月、本校にて開催されることになりました。

つきましては、一般演題の募集を行います。発表内容は柔道整復学ならびにその他医学に関する学理及びその応用に関する研究となります。応募希望の方は右記までお問い合わせください。

開催日：2010年5月16日(日)

場所：森ノ宮医療学園専門学校 7階講堂

※演題の採否は、実行委員会が決定させていただきます。

ご了承ください。

☆問い合わせ先：柔道整復学科 外林、老後

oigo@morinomiya.ac.jp